

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 2 区分
 【発行日】平成 20 年 1 月 24 日 (2008.1.24)

【公開番号】特開 2007-211846 (P2007-211846A)
 【公開日】平成 19 年 8 月 23 日 (2007.8.23)
 【年通号数】公開・登録公報 2007-032
 【出願番号】特願 2006-30822 (P2006-30822)
 【国際特許分類】

F 1 6 C 17/10 (2006.01)

H 0 2 K 7/08 (2006.01)

F 1 6 C 33/10 (2006.01)

H 0 2 K 5/16 (2006.01)

【F I】

F 1 6 C 17/10 A

H 0 2 K 7/08 A

F 1 6 C 33/10 Z

H 0 2 K 5/16 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 12 月 3 日 (2007.12.3)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

軸受と、該軸受と係合された軸支と、該軸支に下端を固着した動圧発生溝を有する中心軸とから構成される固定部と、

前記中心軸に回転自在に挿入されたスリーブと、該スリーブに係合されたスラスト軸受とから構成される回転部とを有し、

前記スラスト軸受は、前記軸受と前記軸支との間に挟持され、

前記中心軸と前記スリーブとの間にラジアル方向の動圧発生部を有し、前記スラスト軸受と前記軸支及び軸受との間にスラスト方向の動圧発生部を有し、かつ前記軸支及び前記軸受の両端に開口部を持つ流体軸受モータにおいて、

前記中心軸の上部に動圧発生溝を形成せず、かつその上部の中心軸とスリーブの間にオイル溜まりを形成し、前記スラスト軸受側の開口部に油溜まりを形成してなることを特徴とする流体軸受モータ。

【請求項 2】

前記中心軸の上部と前記スリーブの上部により、毛細管現象による油導入部と一定間隔の隙間空間が形成されている、ことを特徴とする請求項 1 記載の流体軸受モータ。

【請求項 3】

前記軸受の油溜りの上方に、毛細管現象による油導入部と一定間隔の隙間空間が形成されている、ことを特徴とする請求項 1 記載の流体軸受モータ。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 6 】

(1) 軸受体と、該軸受体と係合された軸支体と、該軸支体に下端を固着した動圧発生溝を有する中心軸とから構成される固定部と、

前記中心軸に回転自在に挿入されたスリーブと、該スリーブに係合されたスラスト軸受とから構成される回転部とを有し、

前記スラスト軸受は、前記軸受体と前記軸支体との間に挟持され、

前記中心軸と前記スリーブとの間にラジアル方向の動圧発生部を有し、前記スラスト軸受と前記軸支体及び軸受体との間にスラスト方向の動圧発生部を有し、かつ前記軸支体及び前記軸受体の両端に開口部を持つ流体軸受モータにおいて、

前記中心軸の上部に動圧発生溝を形成せず、かつその上部の中心軸とスリーブの間にオイル溜まりを形成し、前記スラスト軸受側の開口部に油溜まりを形成してなることを特徴とする流体軸受モータ。